

# 議会情報

## 議長・副議長

6月22日に市議会議長・副議長の辞職願が許可され、選挙を行いました。

▼川越市議会議長の辞職について  
三上喜久蔵議長より議長の辞職願が提出され、許可しました。

▼川越市議会議長選挙について  
小ノ澤哲也副議長より副議長の辞職願が提出され、許可しました。



議長が欠員となったため、選挙を行った結果、小野澤康弘議員が議長に当選し、就任しました。

▼川越市議会副議長の辞職について  
小ノ澤哲也副議長より副議長の辞職願が提出され、許可しました。

▼川越市議会副議長選挙について  
川越市議会副議長選挙

## 正副議長の紹介



副議長 関口 勇

経歴  
平成15年に市議会議員に初当選し今期が3期目となります。現在までに厚生常任副委員長等を歴任しています。



議長 小野澤 康弘

経歴  
平成15年に市議会議員に初当選し今期が3期目となります。現在までに議会運営委員長等を歴任しています。

## 弁護士人口激増問題に関する意見書

政府は、2002年3月、当時年間千人程度であった司法試験の合格者数を、2010年ころまでに3千人程度とするを旨とする旨の閣議決定をした。ところが、その後2007年度に至って合格者数が2千人を超えて以降、司法修習を終えた新人弁護士のうちの少なからずが既存の法律事務所に就職できなくなり、それは毎年深刻化の一途を辿っている。このような実務を通じ技能を磨く機会の乏しい新人弁護士が毎年増え続ける事態となっており、当該閣議決定にもかかわらず2007年度以降の司法試験合格者数は2千人余りで推移している。しかしそれでも、当該閣議決定当時約1万8千人余りであった。弁護士人口は、僅か10年後の本年には3万4千人程とその2倍近くになることが確実な情勢である。

かような弁護士人口の激増が続けば、新人弁護士の就職困難な状態が一層拡がり、それに連れて個々の弁護士間に法律家としての知識・技能等の質的面で格差が生じていくことになる。しかも、法律相談や事件処理を依頼する市民が弁護士の質を見分けることは至難の業である。そのため、このような質的に低下した弁護士が増加する状況が続くならば、不適切な助言や事件処理等により市民が「被害」を被る事態の増えることにも繋がりがかねない。

このように、現下の弁護士人口の激増は、市民の法的利益や権利・自由の適正な確保・実現という観点からしても重大な問題である。

よって、当議会は、関係各機関に対し、前述した弁護士人口激増に伴う諸問題の根本的解決のため、当該閣議決定を直に見直し司法試験年間合格者数を当該閣議決定当時の千人程度に戻すことを求める。

右、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成24年6月22日

川越市議会

## 議会運営委員会

▼川越市議会運営委員会委員の選任について  
任期満了に伴い選任を行いました。

委員長	吉田 光雄
副委員長	若海 保
委員	片野 広隆
委員	桐野 忠
委員	柿田 有一
委員	大泉 一夫
委員	中原 秀文
委員	高橋 剛
委員	石川 智明
委員	新井 喜一

## 委員会条例

▼川越市議会委員会条例の一部を改正する条例を定めることについて  
会派数の減少に伴い、議会運営委員会委員の定数を11人から10人に変更しました。

## 今定例会の傍聴人数

平成24年川越市議会第2回定例会 合計122名の方が傍聴されました。			
開会日	32人	一般質問③	13人
議案上程日	2人	一般質問④	7人
質疑①	1人	一般質問⑤	18人
一般質問①	36人	一般質問⑥	6人
一般質問②	4人	最終日	3人

次回もお待ちしております

## 議場コンサート

6月1日に議場コンサートを開催しました。市内の尚美学園大学の学生5名により、「Brass Quintet」他1曲の演奏が行われました。



## 編集後記

川越は大正11年12月1日に市制施行され、今年で90周年を迎えています。その歴史の中で昭和34年2月10日に川越市議会報第1号が発行されています。第1面に「市議会を知っていたために」と発刊のことばとして大きく書かれています。それから五十余年、川越市議会報から議会だよりと変わりましたが、市民の皆様には市議会を知って頂くことを基として努力してまいります。

(吉野郁恵)

発行 川越市議会  
編集 川越市議会広報紙  
編集委員会  
電話 049-224-6067